

1919
2010
11/1

府職の友

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／平井 賢治 編集人／小山 智美
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

府労組連

第一次決起集会 (大阪労連と共催)
11月9日(火)18時45分～
府庁正面玄関横駐車場
第二次決起集会
11月12日(金)16時30分～
教育塔前広場

給与制度改革提案は撤回せよ



600人の怒りの決起集会

10月21日「もうガマン限界！怒り大爆発 府労組連学習大決起集会」がクレオ大阪中央大ホールで開催されました。集会には、600名の組合員・職員をはじめ、府民団体や民間労働組合や自治労連からの参加もあり、9月16日の給与制度改革・賃金カット継続提案以降、職場の中で大きく広がった怒りが続々と寄せられました。

主催者あいさつに立った辻府労組連委員長は「今回の改悪提案は公務員制度そのものを脅かす大改悪だ。何としても撤回させよう」と力強く呼びかけました。

また、府民・民間労組を代表して3名の方から、「橋下知事による府民いじめの実態を府民に知らせ、大きな運動を作り出そう」と力強いエールをいただきました。

集会では、各職場より7名が怒りのリレートークを行い、府職労からも3名が職場から湧き起る怒りの声を報告しました。

「主任・専任主事や5級主査が職場でも中心的な役割を果たしており、今回の改悪提案はがんばっている職員の士気を低下させるものであり、断じて許せません。業務の民間委託も強行され、職員の誇りは奪いつけられている(府税事務所)」「保健所では府民の公

衆衛生の向上のため多職種職員の連携して業務をしているが、今回の提案では職種によってはポストも限定され、職場のチームワークが崩壊する。また、保健師は事務職や他の技術職に比べて主査任用比率が低く、今回の提案は納得できない(保健所)、「職員は児童虐待対応など、昼夜分かたぬ努力をしているにもかかわらず、なぜこれほどの

人件費カットをされなければならぬのか。緊急保護のための一時保護所も満員状態、待機が発生する事態も起きているのに、改善されていない。この間のカットは大企業のための巨額開発のツケではないか。職員は大企業のために仕事をしているのではない(子ども家庭センター)、「子ども家庭センター)と力強い怒りの発言が相次ぎ、会場からは大きな共感の拍手が寄せられました。

生活・人生を狂わせる 当局提案に怒り爆発

10月22日、府労組連は給与制度改革・賃金カット継続提案に対する団体交渉を行い、職場で沸き起る怒りを背景に、当局を徹底的に追及しました。

交渉の冒頭に職場を代表して6名から、今回の給与制度改革、賃金カットに対する怒りの発言を行いました。

給与制度改革・賃金カット 継続提案に対する団体交渉



府労組連

当局は「府民の信頼を得るために、職務に応じた給与制度にするため、1つの役職段階で1つの級とした(一律の昇格を廃止すること)で、昇任するためには「んぼることになる」との答弁を行った上、「給与を引き下げられてやる気がなくなる」との追及には「最高号

級に到達する(頭打ちになる)職員もたくさんいる。しかし、モラル(やる気)確保の方法は給与や昇任に限られるものではない」と自らの提案理由にも矛盾する無責任な発言を行ったた

め、交渉は紛糾しました。また、現業職員への技能労務職給料表適用については「民間・国より水準が高い、賃金カット問題については、「引き続きカットを継続したい」と不当な回

答に終始しました。辻府労組連委員長は「職員の生活・人生を狂わし、多くの職員のやる気を奪うもの。職務に応じた給料表としているが、実際は『職階』によるもの。職員を競争させ、役職についた者だけが、府民に奉仕するのではない。チームとして専門性を発揮し、奉仕することこそ求められている」と述べ、提案を撤回するよう求め、交渉を終えました。

府労組連は、職場集会の開催、怒りのひとこと、全職員署名などのとりくみを進めるとともに、秋季年末闘争のたたかいと結合し、とりくみを強化します。11月9日には民間労組とも共同した決起集会も開催し、当局交渉も強化することにしています。引き続き組合員・職員のみなさんの結果・ご協力をよろしくお願ひします。

遊歩道

古くから液体の体積を計るために「ます」や「タンク」が使われてきた。ハイテクの現代に

おいても、構造が単純であることから、製作が容易・維持管理のコストを低くできることや、用途・要求精度に適した構造のタンクを選択することができるところから永年使われてきた。しかし、20万トンタンクで輸送してきた原油の体積を計る場合、高粘度であり、残量の変化が大きいことなどにより、正確に計ることができない。「タンク」で計ろうとすると、同じ大きさのタンクが必要であり、現実的には同じ大きさのタンクを作ることも不可能である。このような場合、小さなタンクで繰り返し計ることになるが、間欠流(流れたら止まったりする)になる欠点がある。現在では、パイプルーバを使用することでパイプラインの輸送途中でも「連続流」での流量計の校正ができる。正確に計ることができる。今回の「給与制度改革」提案は、役職に就かなければ昇給しない「間欠流」ではないでしょうか。賃金決定の原則は、「生計費」ではないでしょうか。人生設計は「連続流」途中で「間欠流」にされては堪りません。